

海外安全対策情報 2015年第3四半期(7月~9月)

1 社会・治安情勢

沿海地方における犯罪発生件数は2012年から増加傾向にあったが、2014年に減少に転じた。しかし犯罪発生率は依然として高い水準にあり、昨年極東管区内で登録された総犯罪件数の37.5パーセントを沿海地方が占めており、当地の治安情勢は良好とは言い難い。

当地における発生犯罪の傾向としては、窃盗が犯罪件数の約4割を占めており、自動車盗の多発、麻薬関連犯罪の増加(前年比69%増)、銃器・爆薬等を利用した犯罪の増加(前年比39%増)などが挙げられる。

今般の経済制裁及び原油安に始まる為替変動とインフレが当地においても顕著であり、社会情勢の不安定化及び治安の更なる悪化が懸念され、引き続き注意を要する。

2 一般犯罪・罪種別犯罪の発生傾向等

(1) 一般犯罪の傾向

2014年の沿海地方における犯罪登録件数は48,846件(前年比7%減)である。同登録件数は極東管区内犯罪登録数の37.5%を占める。2015年上半期の犯罪登録件数は前年同月比で10%減少している。

2014年の犯罪発生率は、沿海地方における犯罪発生率(人口10万人あたりの犯罪件数)が2,508件で全ロシア平均(1,507)の1.66倍であり、83連邦構成主体中第4位の位置を占めていることから、当地における犯罪発生率は深刻な状況と言える。(1位はザバイカル地方、モスクワ市は38位)

(2) 罪種別発生状況

ア 増加傾向にある犯罪

2014年は銃器・爆薬等を利用した犯罪の増加(前年比39%増)、麻薬不法取引(前年比69%増)、汚職事件(前年比5%増)、収賄(前年比73%増)、贈賄(前年比236%増)

2015年上半期、前年同期比で増加した犯罪は、汚職事件が6.9%増、贈収賄事件が37%増、組織犯罪事件22%増、麻薬不法取引10%増。

イ 減少に転じた犯罪

2014年は殺人(前年比5%減)、重度傷害(前年比15%減)、傷害致死(前年比16%減)、強盗(前年比19%減)、窃盗(前年比20%減)、強姦(前年比15%減)

2015年上半期、前年同期比で減少した犯罪は、殺人49.4%減、強姦33.3%減、重度傷害15%減。

(3) 地区別発生状況

ア 沿海地方行政区分

沿海地方における登録犯罪のうち、およそ3分の1がウラジオストク市において発生。2015年の登録犯罪の51%が窃盗、強盗、略奪、詐欺を含む財産を狙った犯罪。

沿海地方内における犯罪発生率は1位がナデジュディンスキー地区、2位がミハイロフスキー地区、3位がハサン地区であり、ウラジオストク市は13位（31地区中）。

イ ウラジオストク市内

ウラジオストク市内において犯罪登録数が増加傾向にある地域は、市内ソヴィエツキー地区となっている（市北部に位置し、市中心部からは離れているが鉄道駅、幹線道路、各種商業施設、娯楽施設等が同地区南部に密集している）。凶悪事件の発生が比較的多く報じられる地域は、金閣湾の東部・南部である。なお、レーニンスキー地区（市中心部および市東部）において、麻薬不法取引の登録件数が2015年上半期、前年同期比80%増加している。

(4) 邦人被害事案

今四半期中の発生情報なし。

(5) 邦人以外の外国人が関係する凶悪事案

ア 7月15日午前7時頃、ウラジオストク市スタレーツィア大通り24番地付近で停車していたトヨタカローラの運転手にウズベキスタン人の男が殴りかかり、車を奪い逃走した。

イ 8月2日、ウラジオストク市フタラヤレーチカ付近の海水浴場で二人組のウズベキスタン人の男が28歳の女性を強姦した。

ウ 9月14日、ハサンスキー地区リャザノフカ村において、農業に従事する中国人2名が口論となり、一方が銃で相手を射殺した。

エ 9月30日の夜、ウラジオストク市ポリシェンコ通り17番地付近のバス停において、ロシア人の親子（父41歳、息子18歳）が数人のウズベキスタン人に暴行された。

3 テロ・爆弾事件発生状況

今四半期中の発生情報なし。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

今四半期中の発生情報なし。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

当該期間中は、大規模な賃上げストや商業活動に関連した暴動等、企業の安全に影響を及ぼす事案の発生情報はない。

以上